

研究テーマ	<p>【Ⅰ 造形教育で培う力を考える】</p> <p>描画力の基礎を身に付けることができるワークシートを中心とした教材の開発</p> <p>～第1学年「鉛筆マジック！」鉛筆デッサンの実践を通して～</p>
-------	--

1 研究テーマについて

本校の新入生の授業で最初に感じることは、小学校の学習で基礎・基本が身に付いている生徒が半分程度と少ないことである。とりわけ鉛筆の使い方、絵の具の使い方、簡単な物を描くことが苦手だ、上手にできないと答えている生徒が226人中139人（平成22年度1学年調査）と多い。この基礎・基本を課題として取り上げたい。※上記同質問214人中167人（平成25年度1学年調査）

今回の研究では中学で初めて学ぶ専門的分野に発展させた美術を通して、基礎・基本となる、技能的な力を身に付けることで、美術における造形的な創造活動の素地を育てることを目的とする。またどのようにしたらすべての生徒に基礎・基本を身に付けさせることができるか、支援の方法を研究した。そのために、授業で効率よく基礎・基本が身に付くためのワークシートを中心とした教材の開発を行った。対象は1年生で、入学後最初の課題とする。教材は表現の仕方をマニュアル化することで、全員が同じ歩調で基礎学力が身に付くことを想定して施策し、実践する。具体的に基礎・基本がどれだけ身に付いたかという達成度は、全員が課題を完成させることができること、教師が意図した発想や技術面においてある一定の表現ができること、完成後に充実感と達成感が味わえること、を基礎・基本が身に付いた具体的な達成目標とする。この研究で開発した教材を実践することで、どれだけ基礎・基本を身に付けることができるかを調査する。この課題を経て生徒たちが充実感や達成感を味わうことができれば、生涯にわたり、主体的に美術の創造活動に関わっていく態度をはぐくめるであろう。

2 実践例

(1) 題材名 鉛筆マジック！

(2) 題材の目標

- ・鉛筆の使い方や鉛筆で描くことを学習することを通して鉛筆の奥深さを感じ、意欲的に制作に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・鉛筆の特徴を生かして自分の感じとったように鉛筆を使って表現することができる。 (発想・構想の能力)
- ・デッサンの仕方をワークシートから理解し、対象となるモチーフを立体的にとらえて表現することができる。 (創造的な技能)
- ・鉛筆の特徴を生かすことによって、表現の違いが生み出されることに気付き、鉛筆デッサンの美しさを感じ取ったり味わったりすることができる。 (鑑賞の能力)

(3) 題材について

今回の題材では大きく「鉛筆」と、「デッサン」という2つの柱に分けて学習を行った。2つに分けることでより段階的に理解することができ、意欲的にデッサンに取り組めるようにした。

① 鉛筆について

中学校に上がるとほとんどの生徒がシャープペンシルを使用する傾向にある。入学後の美術の授業で簡単な絵を描く場面でも、多くの生徒が迷うことなくシャープペンシルを使用している。シャープペンシルは細かい表現ができるが、筆圧の変化を感じ取ることが難しい。そこで絵を描くにあたって鉛筆を使用することで「描きやすい」「たくさん線が描ける」「やわらかい」と感じることができるような表現技法をワークシートを使って試みた。それは筆圧による塗りであったり、線の重なりでの明暗であったりする。描画において最も身近で、基本的な画材であり、豊かで奥深い表現ができる鉛筆への理解を深めることで、鉛筆の魅力を感じ、それを使用して表現することで、描画への意欲が高まることをねらいとする。

生徒には2Bと4Bを渡し、カッターを使って自分で鉛筆を削ることから始める。カッターで削る経験をしたことがない生徒も多く、自分で使う鉛筆を自ら作り上げていくことに喜びを感じることができる。また鉛筆の太さや柔らかさに実際に触れ、鉛筆の特徴を肌で感じることができる。鉛筆の特徴について削った鉛筆を実際に使用して学ぶことで、より深く鉛筆のもつ良さに気付くことができるようにしたい。

② デッサンについて

デッサンとは主に鉛筆やコンテ、木炭などの黒一色の濃淡のみで対象物を描いた絵のこと、またはその行為自体のことである。デッサンは素描とも言われ、描画においてもっとも基礎となるものである。

どの課題においても「絵が描ける」ということは大変有効な技能になる。しかし、実際にデッサンするのは難しい。素描を何回も練習し、形をとらえる訓練をしなければ習得できない。苦手意識のある生徒には絵を描く行為自体が苦痛に感じられるため、デッサンはハードルの高い課題である。しかし、今回は主にワークシートを活用して教材をマニュアル化することにより、ほぼ全員の生徒がある程度のデッサンが描けるための手立てを工夫した。苦手意識をもつ生徒が、デッサンが描けたという充実感や達成感を味わうためにも、描き方をマニュアル化して、絵を描くことが出来るようにした。また鉛筆だけで表現できるおもしろさや、奥の深さを感じ取る手だてとしてもデッサンは有効な方法だと考えた。1年生の最初の段階でデッサンを習得することで、今後の課題に応用や広がりができることをねらいとする。

(4) 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
鉛筆の特徴や使い方を知ることによって意欲的にデッサンに取り組もうとしている。	鉛筆のよさを感じ取りながら特徴を生かして鉛筆による表現をしている。	ワークシートによって学習した技法を生かして、鉛筆で表現しようとしている。	鉛筆の特徴を生かした表現の違いを感じ取ったり、デッサンのもつ表現の美しさを味わっている。

(5) 指導と評価の計画 (8時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次②	○鉛筆を削る。自分でデッサン用に芯を長く削る。 ○鉛筆について特徴を知る。ワークシート NO.1 を使って種類や力加減によってできる違いを学ぶ。	・意欲的にデッサン用の鉛筆を削っている。 関【観察・鉛筆】 ・ワークシート NO.1 から鉛筆の特徴を生かした表現している 技【ワークシート】
第2次② 本時	○デッサンの特徴について資料集やワークシート NO.2 を使って学ぶ。構図や線の重ね方、明暗について具体的に練習する。(本時) ○定規を使ってデッサンを練習する。 モチーフ (描画時間) ・鉛筆 (15分) ・ガムテープ (15分)	・ワークシート NO.2 からデッサンのポイントを押さえようとしている。 関【観察・ワークシート】 ・ワークシート NO.2 の内容を使って実際の表現に生かしている。 発【観察・デッサン練習シート】
第3次③	○練習シートから学んだことを生かして「上履き」をモチーフとしたデッサンをする。 ①上履きの練習1回目 (20分) 上履きの練習2回目 (5分) ②上履き本番用紙にデッサン ③仕上げ	・デッサンの練習を生かして意欲的に取り組もうとしている。 関【観察】 ・鉛筆の特徴を生かした技法を取り入れて表現している。 技【作品】 ・自分らしく対象をとらえて構図を考え、鉛筆の効果を生かして構想している。 発【観察・作品】
第4次①	○出来上がった作品を黒画用紙に貼り、サインを入れて作品を完成させる。 ○作品を相互鑑賞する。	・自分らしく作品を貼り付けて完成させようとしている。 関【作品】 ・友達の作品から鉛筆の特徴や表現の美しさに気付いたり、味わったりしている。 鑑【鑑賞用ワークシート】

(6) 本時の展開 第2次 2時間目

①目標

- ・鉛筆を使つての描画の違いや立体に見える仕組みなど、デッサンの基本を描くことができる。
- ・ワークシート上で試して鉛筆での描画の表現の違いを感じることができる。

②準備・資料

ワークシート NO.2 資料集 デッサン練習シート 鉛筆 (2B・4B) 消しゴム 定規
ワークシート解説用実物 (瓶 箱 果物 ぼうし など)

③展開

学習活動・内容	指導上の留意点・ 評価（評） 発問○
<p>1 前時の鉛筆の表現について振り返る</p> <p>2 本時の課題である，デッサンの基本事項や表現の仕方について，ワークシートを使って練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>鉛筆マジックを使ってデッサンのやり方をあっと言う間にマスターしよう！</p> </div> <p>①デッサン用語の確認 デッサン 実物大 モチーフ 画面 構図 ハッチング</p> <p>②デッサンの描き方のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物の正確な大きさ ・大まかな形 ・立体的に見える線入れ方 ・質感の違い ・資料集や本物のデッサンを見て <p>3 本時の活動を振り返り，成果と課題を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシート NO1 を見ながら，鉛筆のは種類や力加減によって表現が違うことを確認できるようにする。 ○今日は鉛筆マジックを使って簡単に絵が描ける方法を体験します。 難しく考えずに簡単に描けますよ！ ・ワークシート NO.2 に用語を書き込むことで言葉を意識できるようにする。 ○定規を使うとできることは何でしょう。 ・定規を使って正確な大きさを図ることで，同じサイズ（実物大）にかけることやまっすぐな線が引けることに気付かせる。 ○これを箱にいれるとしたらどんな箱かな。 ・箱を使って大まかな形のとらえ方を理解する。実際に物を箱に入れて大まかな形を想像させる。 ○どうしたら球になるだろう。線の入れ方を考えよう。 ・円と球の違いを線の入れ方の違いだけで表現できることを描かせる。 ○どうしたら質感の違いが出せるかな？鉛筆の学習で気付いたことを思い出してやってみよう。 ・ワークシートの□の中にクッションと鉄板を表現する。質感の違いを筆圧の違いや鉛筆の動かし方から感じ取る。 ○明るさの違いは何で表現できるだろう。 ・実際のデッサンを見て，感じることや明暗の差を鉛筆の種類や重ね方，力加減などで表現できるように気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発 鉛筆を使っての描画の違いや，立体に見える仕組みなど，デッサンのポイントを押さえて基本を描こうとしている。 (観察・ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学んだことを振り返らせ，次回のデッサンが簡単に描けることを確認し，次回への意欲をもたせる。

3 成果と課題

(1) 実践の成果

3年間連続して実践してきたが、各年度とも全生徒が途中で投げ出すことなく取り組むことができた。鉛筆削りにおいては、自分で削ることで芯のやわらかさに目で見えて触って気付くことができた。

鉛筆を削ってからのデッサンだったので描くことに抵抗なくデッサンに入ることができた。デッサンでは定規を使うことにより、簡単に描けることに気付き、同じ大きさに描けたことに喜びを感じている生徒が見られた。ワークシートが描き込み形式なので、どの生徒も同じ歩調で、作業に差が付くことが少なく、仕上がりまでいくことができた。

本番ではワークシート以外に練習シートを使って描く時間を変えて2回練習したことにより、本番は自然に形をとらえてデッサンすることができ、また進度も同じ時間で完成することができた。ワークシートで練習しているので、つまずいたときにより具体的に声掛けや助言ができた。例えば「立体的に見えるようにするにはどんな線の重ね方がいいのかな」、「同じサイズにするために使うとよい物はなにかな」などである。このような助言により本番のデッサンになっても表現の仕方が具体的にわかった。また制作中に友達の途中経過の作品を観賞させることで、線の入れ方が分かり、自分の作品に応用することができた。完成後の作品の観賞では、「細かい所まで線が描けた」「初めて立体的に描けた」「影の付け方がわかった」などの意見が聞かれた。作品の仕上げに黒い紙に貼ってサインを入れたことでより印象よく仕上がり、授業の自己評価では92%の生徒が達成感を味わうことができた。(※95%平成25年度)

2年生になって、鉛筆デッサンによる「自画像」の課題では顔の形のとらえ方や線の重ね方が自然とできた。完成度も高い生徒が多く見られた。3年生での課題の「幻想画」では、内容にデッサンを取り入れる生徒も見られた。デザインの分野でも最初に簡単にアイディアスケッチをする際に、モチーフを簡単にデッサンする様子も見られた。3年間を通して見るとデッサンがどの課題にも応用でき、作品制作に重要な役割を担うことができた。

(2) 今後の課題

9割の生徒が最後まで意欲的に取り組めた。感想の中で多く見られたのが「頑張った」135人である。次が「難しかった」81人であった。きちんとした描き方を体験したのが初めてだった生徒が多く、「初めてだったので」も57人と多く書かれていた。難しかった理由として、「定規の使えない曲がった部分の描き込みができない」「見えない部分が描けない」「上履きのひもの結び目が難しい」などがあがった。ワークシートを分析してみると、物の形を理解してよく観察して描く部分やマニュアル化した描き方では描けない物の重なり部分や、緩やかな弧など、感覚的に表現する部分を描くことが難しかった。解決していくには、デッサン前の簡単な描画のクロッキーを毎時間行って反復練習することが大切であろう。しかし時間確保がなかなか難しい。今後はデッサンを様々な課題のなかの一部として位置づけ、導入や発想構想の時間に自由に取り入れられる題材の進め方を考えていきたい。また感性面でも自分の感じ方や表現の仕方に重点を置いて、一定のやり方を超えた感性を磨けるような実践型鑑賞にも取り組み、創造性を磨き描画力につなげていきたい。

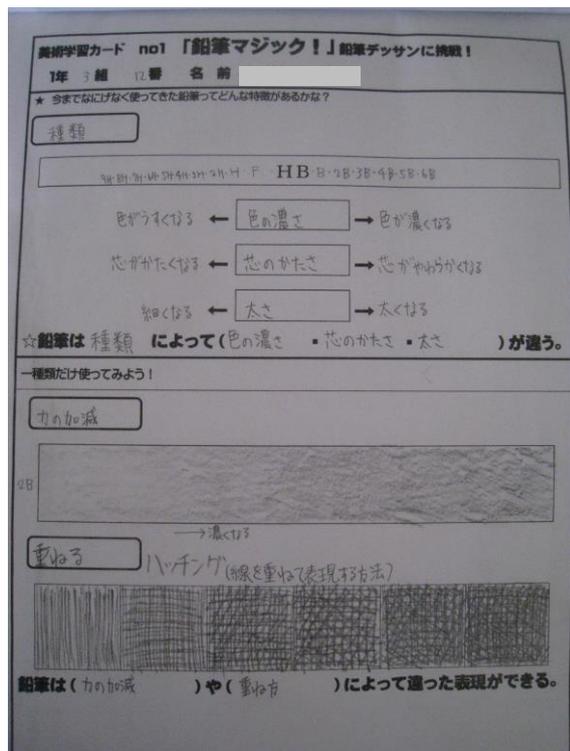
参考文献・「中学校学習指導要領解説 美術編」日本文教出版発行 文部科学省

・「評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」教育出版発行

国立教育政策研究所教育課程研究センター

資料

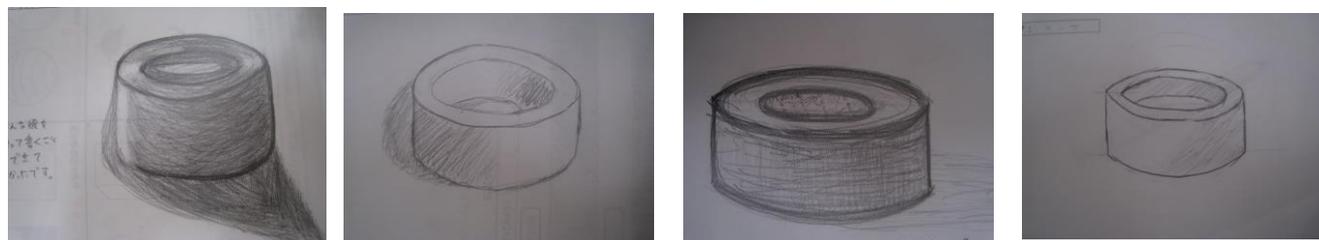
第1次 1時間目 ワークシート N01



第2次 1時間目（本時）ワークシート N02



第2次 2時間目 練習シートを使ったガムテープのデッサン



第3次 1時間目 練習シートを使った上履きデッサン

25分デッサン



5分デッサン

